こんにちは 教育委員です

発行:今金町教育委員の会
〒049-4393 北海道瀬棚郡今金町字今金48−1
TEL:0137-82-3488【No.63】H21(2009).4.6
E−mail:mitsuhiro.nakajima@town.imakane.lg.jp

総合型スポーツクラブ道外先進地視察研修を終えて

貴重な機会を頂き、この度体育協会関係者の皆さん一行４名で標記道外視察研修の一員として、先進地であります福島県二本松市安達地区の「あだちスポーツクラブ」及び福島県立あずま総合運動公園で先進的な事例や施設整備機能について研修させて頂きました。

主な説明の柱は、次のとおりです。

□ 地域に根ざした総合型スポーツクラブの取組
～地域住民が主役となったスポーツ環境づくり～
説明者：あだちスポーツクラブ理事長　佐藤克男氏

１．クラブ創設以前のスポーツ事情
・スポーツ愛好者の固定化・減少化が進む
２．全体的な現状
・やる人だけがやっている
・「何かスポーツをやらなければ」と思っている人は多い
・個人的にウォーキング・ランニングをやっている
・家族で楽しむ環境ができていなかった
３．小学生の現状
・子どものスポーツ離れが進んでいる
・スポ少指導者の確保が困難
・スポーツに対する意識変化
親の考え方→芽を摘む
４．中学生の現状
・全体的な生徒の減少
・技術を教えられる専門教諭の不足
５．高齢者の現状
・ゲートボール人口の減少
・グランドゴルフ、パークゴルフ（北海道発）の普及
・健康のためのスポーツ欲求
６．全体的に
○　家族でスポーツを楽しむ
○　個人で体育施設を自由に使いたい
○　仲間と一緒に動きたい
↓
既存のスポーツ組織では対処・解消できず
町体指→**スポーツクラブの必要性**←行政
↓
スポーツ本来の特性・・・楽しい・楽しむ

７．設立までの経過
平成１５年４月　町当局・各種団体への説明開始
平成１５年９月　設立準備委員会設立
平成１６年６月　あだちスポーツクラブ設立総会
平成１７年７月　活動開始
８．クラブと学校の連携
・指導者の交流、部活動、スポ少と違う種目を楽しむ
・学校単位のスポ少の統合・再編成
９．問題点と今後の課題
○小学生
・スポ少統合と交通手段
・子どもの居場所づくり事業
○中学生
・指導者の相互交流の充実
・大会参加の問題点（中体連、クラブ大会調整）
○一　般
・参加種目の固定化
10. 全体目標と課題
・活動種目の充実・・・指導力の向上
・ニーズ把握と新種目の掘り起こし・・指導者確保
・高齢者用健康スポーツ導入・・・ステップ運動
・楽しむ機会を増やす・・・イベントの交流
・会員間の交流、親睦を深める・・クラブハウス
・運営資源の安定、確保・・・市からの助成金確保

平成２０年度退職校長訓辞

去る、３月２６日、本年３月末をもって退職される今金小学校長の渡辺勝博氏、今金中学校長の斉藤ゆき子氏の２名から校長会、教頭会のみなさんへ教職生活を振り返っての思い出や管理職としての期待などについてお話をいただきました。

渡辺校長からは、感謝の言葉、教育委員会や事務局の姿に学んだこと、ベテランは年数では測れないなどこれまでの経験に基づいたお話を、斉藤校長からは後輩へ贈る言葉とともに「好奇心おばさんの退職記」「デモシカ先生３８年中学校長で終える」などの寄稿文も紹介いただきました。

お二人の長い教職生活を通じ、今金町はもとより管内、北海道の教育の振興発展への感謝と今後の第二の人生に幸多きことを心からお祈りいたします。

委員寄稿「歳時記」

今月は、田中　稔 委員です。

『北海道の地酒文化を学ぶ集い』に参加して

４月、新入生の真新しいランドセル姿や新中学生、高校生のやや大きめの制服姿が、眩しく目に映ります。子ども達が将来にむけて、ひとりひとり個性豊かに、元気に、たくましく大きく成長してほしいものと思います。新年度、新学期、それぞれの皆さんが、新しい気持ちでそれぞれの職務に取り組まれている事と思います。

私たち農業者も、雪が融け大地が顔を出すと、「今年の大地との勝負が始まるぞ」と気を引き締め新たな気持ちで各作業に取り掛かります。

さて、この委員寄稿、いつも苦慮していますが、今回は去る３月１４日、札幌市の北海道新聞本社で開催されました道新ぶんぶんクラブ主催の「北海道地酒文化を学ぶ集い」に参加しましたので、この報告、感想などについて述べたいと思います。

地域おこしの一助としたい、道南一の米産地今金、百有余年のこの地の稲作の歴史や実情を知ってほしいなどの想いからはじめた「今金の地酒造り」。多くの皆さんのご理解ご協力を頂き、本年５回目の地酒が出来ました、大変感謝しております。酒米の生産者として上記「集い」、タイトルに惹かれ出席しました。「集い」には、遠くからの参加者は少なく、札幌市内と近郊の人を中心に約１００余名の人数でした。午後２時からの開会で、前半に講話、後半は利き酒コンクールと試飲会でした。

講話は３名の方で、始めに「焼き物の歴史と酒器について」札幌市在住の陶芸家　錦織宏さんのお話でした。縄文土器、弥生土器の特徴、陶器と磁器、銚子と徳利、杯と猪口などの内容でした。銚子と徳利、杯と猪口、現在の私たちは随分と本来から見て違った呼び方、使い方をしているようです。次に、栗山町「北の錦」の蔵元　小林酒造専務小林　精志さんの「小林酒造の酒造りの昔から現在」のお話でした。日本酒は世界一、緻密で手のかかるお酒で、全国各蔵での研修を活かし、昔からの酒づくりを替え、道産米１００％使用の酒造りに精進しているとの事でした。最後に、札幌市「千歳鶴」の日本清酒　杜氏　佐藤和幸さんの利き酒にむけてのお酒の種類についてのお話でした。「生酒」「吟醸酒」「純米酒」「本醸造酒」「普通酒」が各個のテーブルにあり、試飲しながらそれぞれの造り方、臭い、などについて学びました。（私はさっぱり区別がつきませんでした。）それぞれが興味深い奥深いお話ですが、１時間に３講話ですので時間が短く大変残念でした。また、すべて消費者目線のお話で、お酒の原料である「米」「水」の話がなかったのも生産者としては残念でした。

後半は、１時間ほどの利き酒コンクールと試食会でした。５グループに分かれて先程の５種類のお酒を１０分間で判別するですが、約１００余名ですべて正解の人は２名、２種間違い３種正解の人が１３名でした。ほとんど当たらないのが普通人ですね。個々好みはありますが、みんなで楽しく飲むのが一番良いお酒と思います。試飲会のお酒はそれぞれが、大変おいしく試飲させて頂きました。適量のお酒は「百薬の長」ですが、この適量を極めるため、体を壊さない範囲でまだまだ修行せねばなりません。私は酒米づくりに励みます。みなさん「今金の地酒」、今後共、よろしくお願い致します。